

生研第30068号
平成31年1月9日

校長・准校長 様
理科・生物科 様

大阪府高等学校生物教育研究会
会長 寺岡 正裕

平成30年度大阪府高等学校生物教育研究会
第47回会員研究発表会開催について(案内及び依頼)

新春の候、貴校ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は本研究会の活動に特別のご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の発表会を下記のとおり開催いたします。

つきましては、校務多忙のこととは存じますが、理科・生物科担当教職員のご出席について、ご配慮いただきますようお願いいたします。

記

1. 日時 平成31年1月25日(金) 午後2時半～4時
2. 場所 大阪府立高津高等学校 記念館1F同窓会室(大阪市天王寺区餌差町10-47)
3. 発表テーマ

(1) 研究会70周年記念事業 奄美研修報告

宮本 裕美子*(関西大学高等部)・宮井 一(府立枚方なぎさ高校)・高嶋 浩紀(府立三国丘高校)

研究会70周年記念事業として、2018年8月8日～12日にかけて、奄美研修を実施したので報告する。若手からベテランの先生方まで幅広い層から21名に参加いただき、亜熱帯地域の森林、マングローブ、海洋生態系を観察した。

(2) eポートフォリオを用いた「関連性を見いだす」教育実践の報告 岡本 元達(教育大附属高校池田校舎)

新学習指導要領では生徒が「～について見出して理解すること」、「～と関連づけて理解すること」といった学びを促すことが必要となった。eポートフォリオを大学受験の観点でなく、日々の授業における学びを蓄積し、生徒自身が作成した資料に基づいて関連性を見出して理解を促すツールとしての活用の可能性を模索し、実践した報告を行う。

(3) 「批判的思考」を育成するための実験課題の検討

河井 昇(府立天王寺高校)

新入生の傾向の1つとして、批判的な思考に至らないことがあげられる。中学段階で行ってきたものは「作業」であって「実験」ではないことに気づかせることで、座学での意識の変化を促すことができるのではないかと考え、実験課題の検討を行った。この取組みについて生徒アンケートで変容を測定し、効果を検証した。

(4) 日本生物教育会 第73回全国大会 山口大会報告 岡本 元達*(教育大附属高校池田校舎)・

宮本 裕美子(関西大学高等部)・小瀧 允(府立茨田高校)・根岩 直希(府立桜塚高校定時制)

2018年8月に実施された日本生物教育会 第73回全国大会 山口大会での記念講演、特別講演、口頭発表、ワークショップ、現地研修等の内容について要点をまとめ、報告を行う。全国的な生物教育の動向及び新学習指導要領のポイントに重点をおいて報告するため、大阪府下の多くの先生方に参加して頂き、意見交換を行いたい。

(5) 汽水産イシマキガイ由来“腸炎ビブリオ様”の寄生物

竹内 準一(ルネサンス大阪高校)

汽水産のカワザンショウガイから寄生虫が見つかったが、イシマキガイからは寄生虫が見つかっていない。その代わりにイシマキガイからは大量の均一の細菌細胞が放出される兆候があり、腸炎ビブリオである可能性がある。

(6) 学校現場における3Dモデリングと3Dプリンターの活用方法の検討

根岩 直希*・西原 岳児(府立桜塚高校定時制)

『生物』を学ぶうえで、本物の動物や植物に触れることは重要であるが、その機会を確保することが難しい場合や、一部の生徒がそのような本物の生物に触れることに抵抗を感じる事が予想される。本発表では、そのような動植物の代替教材を作製するために3Dモデリングと3Dプリンターを利用する方法について紹介する。

(7) 指標生物調査2018の概要報告 木村 進*(府立泉北高校)・岡本 元達ほか(本研究会 指標生物調査委員会)

2018年度に行われた「指標生物調査」の概要を報告したい。この調査は1988年以来7回目となり、大阪府における30年間の生物の変遷と高校生の自然認識の変化が明らかとなった。シラサギやコウモリ類が分布を広げたが、ゴキブリ類やヘビ類は減少している。また、昆虫やカエルに触れない高校生が増加し、自然がもっと多く必要という回答が減少した。

*問い合わせ先：府立和泉高校・濱野 彩(岸和田市土生町1-2-1、TEL:072-423-1926)